



平成30年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月10日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 平成29年7月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第1四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第1四半期	10,436	1.9	588	16.4	593	16.7	370	26.3
29年2月期第1四半期	10,245	0.4	505	8.5	508	5.3	293	22.8

(注) 包括利益 30年2月期第1四半期 345百万円 (21.4%) 29年2月期第1四半期 284百万円 (15.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第1四半期	34.60	
29年2月期第1四半期	26.88	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第1四半期	18,303	13,268	72.5
29年2月期	17,997	13,404	74.5

(参考) 自己資本 30年2月期第1四半期 13,268百万円 29年2月期 13,404百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		0.00		45.00	45.00
30年2月期					
30年2月期(予想)		0.00		45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	21,300	1.4	870	4.6	900	3.5	530	10.7	49.50
通期	44,200	1.6	2,250	0.4	2,310	1.4	1,360	8.5	127.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期1Q	12,446,700 株	29年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	30年2月期1Q	1,740,627 株	29年2月期	1,740,627 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期1Q	10,706,073 株	29年2月期1Q	10,906,073 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3'1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業業績や堅調な雇用・所得環境に支えられ、緩やかな回復基調にあるものの、可処分所得が伸び悩む中で個人消費の回復はまだまだ緩慢であり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、肉の老舗ならではの高い調理技術と食材へのこだわりをもって、お客様の嗜好の多様化や流れの変化に柔軟に対応するため、「肉」を訴求した商品の拡充に取り組みました。

出退店・改装につきましては、「近鉄四日市精肉店」を含め計8店を出店するとともに、入店先施設の改装に伴う改装が1店（第1四半期末において工事中）、また1店を退店いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,436百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は588百万円（同16.4%増）、経常利益は593百万円（同16.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は370百万円（同26.3%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、高品質な商品をよりお値打ちに提供するため、すき焼切落としや、焼肉切落とし等、日常使い商品のアイテム拡充や商品力向上に注力いたしました。

出退店につきましては、近鉄百貨店四日市店及び西武百貨店所沢店に出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,539百万円（前年同期比1.9%増）、セグメント利益は237百万円（同20.2%増）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、オリジナルバーベキューソースに漬け込みじっくり焼き上げた『スペアリブBQソース』の他、「肉」を使った多彩な商品に加えて、季節感の先取りを行う商品や健康や美容を意識した商品の継続的な見直しを行う等、多様な商品展開に注力いたしました。

出退店につきましては、西武百貨店所沢店に「柿安ダイニング」を出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,183百万円（前年同期比3.2%増）、セグメント利益は324百万円（同5.1%増）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、『柏餅』の他、昨年もお好評いただいた『バナナ大福』の種類を拡充する等、新商品の展開と商品構成の見直しを継続して行いました。

出退店・改装につきましては、口福堂4店の出店、入店先施設の改装に伴う改装が1店（第1四半期末において工事中）、また1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,056百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は306百万円（同3.5%減）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、10万食を突破しご好評いただいている『ローストビーフ丼』の他、牛肉しぐれ煮をアレンジした『柿安名物 牛肉しぐれ煮丼』をはじめとする「肉」の丼メニューを中心とした「柿安 Meat Express」をイオンモール大高のフードコートに出店する等、グリル業態の活性化に注力いたしました。

この結果、当事業の売上高は1,236百万円（前年同期比1.2%減）、セグメント利益は55百万円（同111.3%増）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、より安全で安心してご購入求めいただくため、生産者と使用牛が一目で分かる『松阪牛しぐれ煮』の販売を開始し、製販一貫体制を持つ当社ならではの商品としての差別化を進めました。

この結果、当事業の売上高は419百万円（前年同期比3.1%増）、セグメント損失は3百万円（前年同期は23百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ305百万円増加し、18,303百万円となりました。

流動資産は358百万円増加し、10,467百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加332百万円等でありま
す。固定資産は52百万円減少し、7,835百万円となりました。主な要因は、投資有価証券の減少22百万円及び建
物及び構築物の減少17百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ442百万円増加し、5,034百万円と
なりました。

流動負債は456百万円増加し、4,427百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加219百万円及び賞与引当
金の増加175百万円等であります。固定負債は14百万円減少し、607百万円となりました。主な要因は、長期借入
金の減少25百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ136百万円減少し、13,268百万
円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少111百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年4月11日に発表いたしました「平成29年2月期 決算短信〔日本基準〕
(連結)」に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,610	6,534
受取手形及び売掛金	2,571	2,904
商品及び製品	279	288
仕掛品	238	279
原材料及び貯蔵品	175	197
繰延税金資産	204	247
その他	29	15
流動資産合計	10,109	10,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,114	3,097
土地	2,261	2,261
その他(純額)	736	709
有形固定資産合計	6,112	6,067
無形固定資産		
	197	199
投資その他の資産		
投資有価証券	206	184
繰延税金資産	131	140
差入保証金	833	848
退職給付に係る資産	166	160
その他	239	234
投資その他の資産合計	1,578	1,568
固定資産合計	7,887	7,835
資産合計	17,997	18,303
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,235	1,454
未払金	455	419
未払法人税等	481	314
未払費用	938	1,060
賞与引当金	366	542
役員賞与引当金	34	8
その他	459	627
流動負債合計	3,970	4,427
固定負債		
長期借入金	75	50
資産除去債務	462	474
その他	84	82
固定負債合計	621	607
負債合計	4,592	5,034

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	13,952	13,841
自己株式	△3,014	△3,014
株主資本合計	13,282	13,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	3
退職給付に係る調整累計額	102	93
その他の包括利益累計額合計	122	97
純資産合計	13,404	13,268
負債純資産合計	17,997	18,303

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	10,245	10,436
売上原価	5,249	5,249
売上総利益	4,995	5,186
販売費及び一般管理費	4,489	4,598
営業利益	505	588
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	5	6
営業外収益合計	5	6
営業外費用		
支払利息	1	0
その他	1	1
営業外費用合計	2	1
経常利益	508	593
特別損失		
固定資産除売却損	0	4
特別損失合計	0	4
税金等調整前四半期純利益	507	588
法人税、住民税及び事業税	244	257
法人税等調整額	△30	△39
法人税等合計	214	218
四半期純利益	293	370
親会社株主に帰属する四半期純利益	293	370

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)
四半期純利益	293	370
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	△16
退職給付に係る調整額	△4	△9
その他の包括利益合計	△8	△25
四半期包括利益	284	345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	284	345

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,471	3,084	2,029	1,251	407	10,245	—	10,245	—	10,245
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	270	3	19	6	65	365	—	365	△365	—
計	3,742	3,087	2,049	1,257	473	10,610	—	10,610	△365	10,245
セグメント利益 又は損失(△)	197	308	317	26	△23	826	—	826	△320	505

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△320百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△333百万円及びその他調整額12百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成29年3月1日至平成29年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,539	3,183	2,056	1,236	419	10,436	—	10,436	—	10,436
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	231	2	16	4	69	325	—	325	△325	—
計	3,771	3,186	2,072	1,241	489	10,761	—	10,761	△325	10,436
セグメント利益 又は損失(△)	237	324	306	55	△3	920	—	920	△331	588

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△331百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△343百万円及びその他調整額12百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。